

第3回「多様な視点で世界を見る講座」、美德の大切さについて知る。

平成26年11月10日（月）の1年生スーパーグローバルタイムは、山口県立大学看護栄養学部、浦山晶美（うらやまあきみ）先生を講師にお招きして、「研究の姿勢～グローバル時代」をテーマに、第3回多様な視点で世界を見る講座を実施しました。

浦山先生は、Virtues（美德）をキーワードに、子育てをされているお母様方の自己効力感・自尊感情を向上させる研究を紹介されながら、生徒一人ひとりが自らもっている潜在的な力（美德）を発揮し人格を培い人間関係を整えていくことが世界の発展につながる共通項であることを学びました。



生徒の感想の一部

- ・ 「美德」について考えたのは初めてだった。グローバル社会の中で必要なものは一つにしぼれないと思う。場合によって必要なものはちがうので、気転は大切だと思う。グループ学習は楽しかったです。
- ・ グローバルと聞くと、英語力やディベート力などに目が行きがちですが、気転、創造性、柔軟性などの人間の基本的な質を高めることが重要なのだと分かりました。
- ・ 美德の中の言葉に自分があてはまるものがあつた時、自信が持てる気がした。そして美德は貧しくとも豊かでも変わらない、ということも素晴らしいと思った。気付かないうちに、人は歪んだり美しくなっている、ということに納得した。

第4回「多様な視点で世界を見る講座」、世界の犯罪処罰について知る。

平成26年12月22日（月）の1年生スーパーグローバルタイムは、山口県立大学社会福祉学部准教授、水藤昌彦（みずとうまさひこ）先生をお招きし、第4回多様な視点で世界を見る講座を実施しました。

今回の講座タイトルは「犯罪行為への対応の国際比較」で、日本国内における犯罪への対応状況をまず知ることを足掛かりに、イタリアなど他国との国際比較を通して、今後の日本の犯罪対応の在り方について、仲間と話し合うとともに、研究におけるグローバルな視点の取り入れ方を学びました。



生徒の感想の一部

- ・ きちんと今の現状を知らなければ、国際比較はできないのだなと知ることができました。例えば日本とアメリカでは、人口が違うので比率に直して考えるなど、実生活に役立つようなことを学びました。
- ・ 今まで、犯罪は個人の問題だと思っていたが、社会全体の問題だと分かった。日本の今の社会への関心が高まった。
- ・ 「何が罪になるのか」、「別の視点から見ると、180° 違うのではないか」、「この人のことを世間はどう思うのか」、法学部に進学したい私は今日の主題について考えていかなければならないと思った。